

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

第 6 号 令和2年8月21日発行

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

2学期もよろしくお願いたします



校長 堀田 稔

新型コロナウイルス感染症の影響で、今まで経験したことのない夏休みを過ごしたことと思いますが、清水小学校は18日に10日間の休みを終え始業式を迎えました。子ども達は、短いながらも、たくさん経験をして、思い出をいっぱい作り、充実した時間を過ごしたようでした。

以前お知らせをしていた通り、今年度から、苫小牧市内の小学校全校で通知表が前・後期制の2回配付になりました。夏休み、冬休みに入る前に渡していた通知表がなく、今までのリズムと違いますが、以前からそうであった札幌市の知人の話などを伺うと、初めのうちは違和感がありますが、今は違和感がないとの話から「人は変化に慣れていくものなのだな～」と感じています。

○学習進捗の状況とこれから

教室での学習は学校閉鎖で遅れた分の勉強も各学年ほとんど取り戻しつつあります。そして、2学期はこの状況下でもなんとか実施できそうな、6年生最大の楽しみ、修学旅行があります。またその他の学年も宿泊学習、社会見学や体育の参観日など、可能な限りの行事を計画しています。すべて実施できることを願ってやみません。

○社会性を育てる環境づくり

多くの行事の中から社会性が育ってくれることを願って教育活動をしています。一般的に社会性が育つ場とは、安心して自分が存在できる場、たとえ逆境があっても、それを乗り越えられる環境や人間関係が存在する場、そんな「場」でなくては「生きる力」が育つことができないといわれています。

今年度、子ども達に3つのお願いをしています。

- 1 あいさつと返事⇒相手に聞こえるように笑顔で
- 2 聞き方⇒相手に体を向け最後まで
- 3 話し方⇒温かい、やさしい言葉を多く使う



この3つの基本から始めて、人間関係を含めた環境が、今以上に多くの子ども達にとってより良い「場」になっていったらと願っています。

○教育の目指すもの

「教育」については、いろいろな視点や見方で考え、語られていますが、「学校で教えられたこと・言われたこと、親や家庭や地域で言われたことなどをすべて忘れた時、それでも身について残っているものが教育である。」とも言われています。繰り返し学習をしたり、思い出深い感動をする体験をしたりしながら、「学びを広げ」子ども達がより良い未来を自分から作り上げられるように「生きる力」を育み、子ども達の将来のための教育活動を2学期も進めていきたいと考えています。

職員一同、保護者、地域の皆様とともに頑張りたいと考えております。皆様のご支援とご参画を2学期もどうぞよろしくお願いいたします。